

碧水園能

喜多流公演

能
東岸居士 佐々木多門

和泉流
狂言

因幡堂

破石晋照

平成31年2月10日(日)開演午後1時30分
(開場午後0時30分)

自石市古典芸能伝承の館 碧水園能楽堂
主催 碧水園能に親しむ会実行委員会
後援 自石市、白石市教育委員会
(公財)白石市文化体育振興財団

白石商工会議所、白石市文化協会

お問い合わせ先 電話 022-411-517949

住所 宮城県白石市南町二丁目一番三号
入場料

正面補助席、脇正面指定席 6,500円

脇正面補助席 5,500円

自由席 5,000円

学生席 3,500円

(中学生以下無料 先着10名)

チケット取扱所

碧水園、中央公民館、白石喜多会会員
※平成30年12月7日(金) 午前8時30分発売開始
電話受付 午前9時開始

「(写真)友枝真也 所演」

碧水園能

喜多流公演 番組

開演 一・三〇

解説

大島輝久

仕舞

忠

度

友枝真也

狂言

因幡堂

夫破石晋照

妻内藤連

後見 破石澄元

狩野祐一
佐藤寛泰
内田成信
大島輝久

地謡

休憩十五分

二・〇〇

シテ・東岸居士 佐々木多門

二・四〇

能 東岸居士(とうがんこじ)

世の人々を苦しみから救済しようと、さまざまに例えを引きつ面白く舞を舞つて、仏の教えに導こうとする東岸居士。橋を架ける勧進のため、説法を行い、仏法にこと寄せで語り舞つて芸尽くしをみせます。

東岸居士は、説法や芸能で仏の教えを広めた半俗半僧の喝食僧。能面も喝食(かつしき)という、額に銀杏の葉形の髪を垂らした、中世の若者の顔です。

話(ストーリー)の展開よりも、数珠を持って軽やかに舞う「中ノ舞(ちゅうのまい)」や、腰に鼓をつけた舞(羯鼓(かっこ))、難解な詞章ながら苦しみを救済する仏教の教えを説いた「曲舞(くせまい)」など、次々に中世芸能の面白さを見せてゆく曲です。

能

東岸居士(とうがんこじ)

シテ・東岸居士 佐々木多門

大鼓 亀井洋佑
小鼓 森澤勇司

笛 栗林祐輔

破石晋照

一九七九年生。破石澄元の長男。人間国宝。野村万作及び、野村萬斎に師事。万作一門の研鑽会「狂言ざづん座」同人。既に「奈須与市語」三番叟を披く。能楽協会会員。「燐ノ会」同人。

能 東岸居士(とうがんこじ)

シテ・東岸居士 佐々木多門

大鼓 亀井洋佑
小鼓 森澤勇司

笛 栗林祐輔

破石晋照

一九七九年生。碧水園の長男。人間国宝。野村万作及び、野村萬斎に師事。万作一門の研鑽会「狂言ざづん座」同人。既に「奈須与市語」三番叟を披く。能楽協会会員。「燐ノ会」同人。

附祝言

間狂言・清水寺
門前(の者)
後見 塩津哲生
栗谷浩之

佐藤塩津圭介
佐藤寛泰
佐藤陽
大島輝久
内田成信

大鼓 亀井洋佑
小鼓 森澤勇司

笛 栗林祐輔

破石晋照

終演予定 三・三五



2月10日(日) 茶室にて 碧水園茶会 開催
10:00~13:00(12:30受付終了)
表千家席 1席 700円

狂言 因幡堂(いなばどう)

大酒飲みの妻に愛想を尽かした夫。たまたま里へ帰った妻に離縁状を送りつけ、新しい妻を得ようと因幡堂の薬師如来に願掛けのお籠りをする。そこへ腹を立てた前妻がやってきて、「西門の階に立った女を新しい妻にせよ」と偽のお告げをして去る。目を覚ました夫は薬師如来のお告げと思い込み、喜んで西門に向かう

のですが…。中世庶民の因幡堂信仰がうかがわれる狂言です。たくましくわしい女と、気弱な夫の対比が笑いを誘います。